

## 令和5年を迎えて

組合員の皆さま、新年あけましておめでとうございます。  
皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2020年からの3年に渡るコロナ禍は未だに衰えを見せず、変異を幾度か重ね弱毒化したのか、私たちが防御できる身体を少しずつ身につけてきたのか、いずれにせよ、今年もコロナに明け暮れる一年となるでしょう。しかし、我が国はもとより、グローバルではウィズコロナの考えの下、経済においても人々の行動においても、コロナ禍以前を取り戻していく事と確信しております。

さて、業界に目を向けますと、先ずは昨年9月には建廃協に北海道支部が発足しました。北海道に建廃協の精神と取組みを新しい仲間と共に寝付かせ、更なる適正処理と再資源化への道を切り開いていきたいと考えております。そして、プラスチック新法も昨年4月に施行されました。建廃協では11月に「講演の集い」で環境省にご講演をいただき、同時に日本建設業連合会による新たな廃プラ分別への考え方もご講演いただきました。このプラ新法による影響もあり、今年の廃プラの処理は大きな節目を迎えるのではとも感じております。

また、アナログイズムの強い建廃業界に、変革をもたらすデジタル化の推進も時代の流れとして、「建廃DX」という仕組みづくりが始まりました。2023年は業界にとっても建廃協にとっても、ここ数年の停滞から“始動”への脱皮の年であることを確信しております。

今年の建廃協は、“積極的な始動”を方針として具体的などころでは、新規会員の確保、廃プラ分別の改革、建廃DXの構築、建廃協50周年事業へ向けての取組み、各委員会の更なる充実、諸課題への解決対応、等々に向けて尽力して行く所存です。

今年の干支は「うさぎ年」です。60年に一度の「癸卯（みずのとう）」と言います。「丑はつまずき、寅は千里を走り、卯は跳ねる」という格言もあります。大きな飛躍・向上にふさわしい年ということです。余談ですが、なでしこジャパンがW杯を制したのは12年前の卯年でした。

どうぞ、積極的な始動の建廃協を皆さまと共に隆盛にむけて、本年も変わらず、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆さまのご多幸、ご健勝を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。